

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

夢など見せしことなどなき父母が笑顔夜明けにさはやかに見す 平間 久子
 チャボ小屋に入りたる雀が餌を食うけんかせずにねしばらくは居よ 鎌田ねい子
 何こともピーアルする今なれどいぶし銀がいい昔びとの吾 八嶋 正子
 吾はもはや手を掛けねども桶の出来如何と西日の畦に見て立つ 高子うこん
 墓参りひさびさに泊るわが家の窓辺になつかしく夕風を見る 後藤 淑子
 今は亡き父が作りし部屋箒二十年経てど使ひかわらず 鈴木 茂子
 八十路われバーマをかけてはじめてのマニキュアすれば花咲く思い 山田 濱
 やまぼうし実の色づけば足止めて人ら仰げり民話の里に 日下由美子
 若きころ親の心に背を向けしが老いたる今に詫びて敬う 遠藤 行夫
 あの時を怒ってごめん母さんの歳に近づき初めて知った 大庭 良子

【評】一首目、夢のなかの会い――、既に亡くなられているのであろう、ご両親の笑顔を中心の深いところで感じて居られる作者。「見す」は見せるの意。
 二首目、童心の如き語りかけが効果的。
 三首目、地味ながら確かであることの魅力。そんな思いをうまくまとめられた。

俳壇

遠藤 秋尾 選

摩周湖の霧の匂ひでありにけり 山家 弘子
 野の鴉声なく流れ初嵐 斎藤 典子
 門火焚く母が残せる下駄はいて 福原 峯子
 夕迫る急ぐスパー秋時雨 阿部はぎの

「感謝」

風間市長の風のささやき

「ありがとう」「おかげさま」という言葉は、すてきな言葉だと思いませんか？ 言われると、うれしさや喜びが再び込み上げてきて、成し遂げた充実感や、「また頑張ろう！」という力を与えてくれるような気がします。何気ないこの一言が、人を気持ちよく育てる魔法の言葉のように感じます。

しかし、心で思っているにもかかわらず、照れくさいのか恥ずかしいのか、なかなか声に出さない方が多くいるように見受けられます。特に男性陣に多いような気がしますが、親兄弟や夫婦には言いづらいという人もいますよね。これらの感謝の言葉を日常生活において、ごく自然に言い合えるようになればと、つくづく思います。

私たちが生活していく上では、必ずさまざまな人たちの協力や助けが必要です。よく考えてみると、衣・食・住をはじめとするすべてにおいて、誰かの手が加えられているのではないのでしょうか？ 例えば、洋服一つを取ってみても、布や糸などの材料を作る人、デザインを担当する人、縫製をする人など……。突き詰めてみると、さまざま

な手がかかわっていることに気が付かれます。それを「当たり前」と思うか、「ありがたい」と感じるかにより、心持ちに違いが出てくるのではないのでしょうか。当たり前と思うことが大半だとは思いますが、時にはありがたいと気付こうとする姿勢があってもいいのかもしれない。

青年会議所在籍中に知り合うことができた、兵庫県の永井さんという先輩がいます。明石市の銘菓店の社長さんで、人と人との出会いをとっても大切にされる方です。永井さんから届けられる包み紙や書簡のほとんどに、タコの絵と「出合感謝」の文字が添えられています。私もその言葉が大好きで、何かに付けて「出合感謝」と書かせてもらっています。

私も、これまで多くの方に出会うことができました。その中でさまざまなかわりが生まれ、そして多くの助言や支援をいただきました。本当に「感謝」の



一語に尽きます。これからも「ありがとう」の感謝の気持ちと「おかげさま」の誠心を忘れずに、一日一日を大切に生活していきたいと思えます。

【10月号の答え】
 「凸凹（でこぼこ）」は漢字なのか、それとも記号なのか。
 正解は漢字です。凸は五画で読み方は「トツ・でこ」です。また、凹は五画で読み方は「オウ・くぼむ」です。なお、凹単体では「ぼこ」という読み方はしないので、「凸凹」と二文字そろったときに限り「でこぼこ」と読むそうです。

柳壇

四電 英夫 選

出番まで扮装のまま敬老会 岩澤 伍峯
 限りなく空の青さや赤とんぼ 岩松 隆志
 二の丸をわがものとせし輝時雨 服部 忠孝
 秋の日の病院にあり老夫婦 跡部 祐子
 落鮎の白石川のかがやけり 跡部祐三郎
 こよなくも愛でたる亡母に吾亦紅 高子うこん

【評】一句目、旅先で見た摩周湖の霧。素晴らしい景色を象しみにして来たが、霧の湖であった。想像の景色に、霧の匂いを感じられた旅情あふれる句。
 二句目、初嵐に鳴き声もなく吹き流されていく鴉を発見された。中七の「声なく」が、嵐の音までも表現した一句。
 三句目、お盆には門火を焚いてご先祖さまを迎える。作者は、亡き母の下駄を履いて迎火を焚かれた。ほのぼのとした一句。

新米が届いて友は元気なり 水戸 光穂
 節約し地デジ替えた三年後 遠藤 行夫
 不景気を言えばメタボの腹笑う 大庭 良子
 手をひろげ受けとめてやる子の悩み 草野 清
 宴会のお酒と開けば緩む類 高子うこん
 坪庭の花と野菜に和む日々 阿部はぎの
 長雨にてるてる坊主へそをまげ 阿部みさ子
 行き合いの空にひらひら黒揚羽 寺崎 悦子
 米よりも政治の不作気にかかる 斎藤 典子
 つっぱりもホントは殺し声かけて 高橋ヨウ子

【評】一句目、今年も友から新米が届いた。元気に農業をやっている証し。感謝と共に、お互いに頑張ろうという元気が湧いてきた。
 二句目、三年後、テレビはデジタル放送に切り替わる。急速に進む技術革新に、ついていけるかどうか不安がいっぱい。
 三句目、おなかの周りの脂肪が気になるメタボ。水を飲んでも太る人さえないとか。「不景気と言ってる社長の太鼓腹」

International Corner

国際コーナー



「お掃除と日本の夏の“アレ”！」

豊のある日本では、掃除機が欠かせない機械ですね。私が生まれたオーストラリアでも、豊こそありませんが、カーペットやカーテンの家が多いため、やはり掃除機は大切な機械です。ただし、オーストラリアでは最近、自宅の掃除を自分でするのではなく、民間企業に掃除を委託する家庭が増えてきました。理由の一つにアレルギー問題があります。私の家でも、両親と私が“ほこりアレルギー”なので、昔はマスクをしながら我慢して掃除していましたが、今は月に2度、業者が自宅を掃除してくれます。また、専門の清掃業者が国内に増えたことで企業間の競争が激しくなり、その結果、安い値段で委託できるようになったことも、大きな理由になりました。

業者委託には良い面と悪い面の両方があります。自由時間は増えるので良いのですが、自宅に見ず知らずの他人が来ることになるので、注意が必要です。業者に自宅のカギを預けることもあるので、泥棒される家庭も少なくありません。ですから、業者の人にとっては、お客からその友達を紹介してもらうことが、最も大切なことです。信頼できる人であれば、仕事が増えます。

ところが、その「信頼」が逆にあだになる場合があるのです。というのも、例えば私の両親が頼んでいる業者の人はとても信頼できる方なのですが、最近、掃除の質が落ちてきました。しかし、その人を信頼しているので、なかなかクビにすることができません。別の人に変えれば、泥棒されるリスクが高くなる。ならば自分で掃除しようと思っても、アレルギーの問題がある。とても悩むところです。皆さんはどう思いますか？

少し話題を変えます。今年で日本でも2回目の夏を過ごしました。日本の夏の蒸し暑さは慣れていますが、カビのことは、これまでも少し聞いたことがありました。

しかし、先日クロゼットを開いて、洋服をよく見たら、ズボンやシャツに何とカビが付いていてビックリ！ オーストラリアの夏の暑さは、日本と違ってドライですので、カビに気を付ける必要がなかったのです。スーツは大丈夫でしたが、スキーウェアは怖くてまだ見ていません。白石に来て1年。もう日本に100%慣れたものと思っていたら、まだまだ甘かったです。来年は、カビに負けないように気を付けます！

まちの話題

～あの日、あの時～

第22回みやぎ蔵王高原マラソン大会

残暑の中にも時折心地よい秋風が吹き、秋の訪れを感じさせる9月14日、今年で22回目を迎えるみやぎ蔵王高原マラソン大会が、南蔵王野営場周辺を会場に開催されました。大会史上7番目に多い1,332人のランナーが参加した本年の大会。午前10時に20kmと親子ペア3kmの部がスタートしたのを皮切りに、距離別に5回に分けてスタートが行われ、好天の中、ランナーたちは初秋のみやぎ蔵王の中を駆け抜けていきました。

今年は、昨年より約350人多い1,416人がエントリーしました。これは、北京オリンピックの開催や健康志向の高まりなどの理由でエントリーする方が増加したものとされます。今大会でも、北は北海道から南は沖縄県まで、全国からたくさんのランナーが参加。小学1年生か



▲力走するランナーたち。ゴールまでもう少し！